

[高知県] 高知市立義務教育学校 土佐山学舎 (義務教育学校)

1. 学校(区)概要

- 教育目標：ふるさに誇りをもち 将来をたくましく豊かに勇気をもって生き抜く児童生徒の育成
- 所在地：高知県高知市土佐山桑尾13
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数 (R3.5.1時点)



学年	前期課程								後期課程					総計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	15	16	15	18	18	16	2	100	17	10	13	3	43	143
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	1	1	1	1	4	12

2. 導入経緯

【検討開始のきっかけ】

急激な少子高齢化を受け、平成22年に保護者や地域住民から土佐山地域に学校を残し、小規模校の強みを活かした社会教育と学校教育を地域とともに一体的に推進する「社会学一体教育」を実現するための「小中一貫校」の整備に係る要望が出され、平成23年3月に、高知市が提案した「土佐山百年構想」の中に、「社会学一体・小中一貫教育プロジェクト」が一つの柱として明記された。

【具体的な経緯】

- 平成25年度 高知市の施策として、土佐山小・土佐山中の統合整備事業が開始
- 平成27年度 小中一貫教育校「土佐山学舎」開校
- 平成28年度 小中一貫教育を制度化する法改正を受けて、「高知市立義務教育学校土佐山学舎」となる

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 土佐山小・土佐山中時代の小規模校・少人数を強みとして継承し個に応じた指導の充実を図る。ブロック毎の学習や異学年交流を通じて、9年間の系統性・継続性を重視したカリキュラムに基づいた教育活動を進める。また、土佐山地域で培われてきた「社会学一体」の理念に基づいた、学校・家庭・地域が協働しての学校づくりや児童生徒への支援に努める。

教職員体制

- 校長：1名配置、教頭：2名配置（前期課程担当、後期課程担当）

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：なし
- 区切り：4-3-2のブロック制（とさやま「志」メロッド）

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制：
第3学年（体育）、第4・5学年（音楽、体育）
第6学年（理科、音楽、体育）
- 教員の相互乗り入れ：
後期課程の教員が前期課程の授業にTTとして乗り入れ（3年算数、6年算数、5年図工、5・6年外国語・総合）
第7学年の数学及び英語に、前期課程の教員がTTとして乗り入れ

児童生徒の異学年交流の工夫

- 外国語の授業での異学年交流（6年生と9年生）
- 英語活動、掃除、地域行事の完全縦割り

市町村教育委員会等による支援

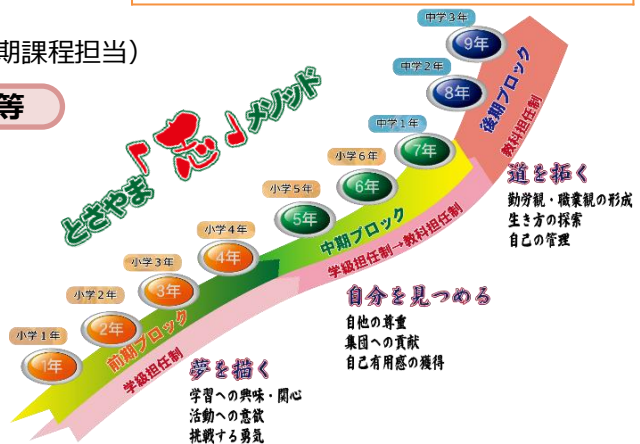
- 義務教育学校としての加配教員の配置
- スクールサポートスタッフの配置 ● 研究推進に対する指導・助言

その他

- 後期課程は全生徒が部活動に入部（バドミントン部もしくは英語部）
- 学校運営協議会及び地域学校協働本部の設置
- 小規模特認校制度による、校区外児童生徒の受け入れ

教育方針

- 9年間を見通した系統的・継続的な学習指導
- 9年間を見通した系統的・継続的な生徒指導
- 9年間を見通し、地域に根ざした特色ある教育活動
- 異学年交流・地域社会との交流
- 個に応じた指導・支援の充実
- 学校・家庭・地域社会が一体となった教育環境づくり



テーマ：9年間で夢と志を育むことを通じた学校を拠点とした「地域の活性化」

取組の工夫

9年間の学びのストーリーを描くことで系統的に学習を進める

土佐山学単元一覧表（R3）

コミュニケーション能力の育成を軸に、地域理解及びキャリア教育の深化をめざす

学年	テーマ	学年毎の学習内容
1年生	土佐山に親しむ	土佐山の自然に親しもう（25時間）
2年生		土佐山の名人に会ってみよう（23時間）
3年生	土佐山を知る	土佐山の魅力を紹介しよう（70時間） ～土佐山の自然を生かしたり、土佐山の魅力にこだわっている人たちの思いを伝えよう～
4年生		ふるさとの川を未来につなげよう ～大切な清流を守り、未来につなげる実践をしよう～（70時間）
5年生	土佐山を見つめる	つながろう！土佐山の魅力 ～山の恵み再発見～（70時間）
6年生		ひろげよう！土佐山の魅力 ～土佐山の恵みの力～（70時間）
7年生		案内しよう！自慢の土佐山 ～土佐山の魅力を最大限に生かした商品で祭りを盛り上げよう～（50時間）
8年生	土佐山に貢献する	地域活性化プロジェクト（70時間） ～土佐山の自然を追究し、PRしよう～
9年生		地域貢献プロジェクト（70時間） ～自分たちのふるさとに貢献しよう～

本校では、1・2年生の「生活科の地域の自然や人に関わる学習」、3～9年生の「総合的な学習の時間」を“土佐山学”と呼んでいる。地域の豊かな資源・人材に関わる活動を学習の中心に据え、1年生から9年生まで、9年間の学びのストーリーを描くことで系統的に学習を進めている。1～4年生では、土佐山のよさを発見したり楽しい体験をしたりする。5～7年生では、地域の抱える課題を見つけ、課題解決の方法を考え地域に提案する。そして、8・9年生は、土佐山学の集大成として地域活性化につながる「土佐山貢献プロジェクト」へ挑戦することになる。これは、7年間かけてこれまで学んできた土佐山のよさも課題も全て熟知しているからこそできる貢献となる。

テーマの変更はないが、学習内容は、学習の振り返りをするなかで出てきた新たな課題を解決するために、探究的に翌年にも継続して取り組んだり、新たな学習内容に切り替えたりするなどしている。

また、4年生の川の学習に関連して、社会科のまちづくりや水に関する単元では地域の浄水場に赴いて水の学習を行うほか、地域を流れている鏡川で水生生物の観察をして理科の学習につなげ、さらには図工での表現に関する学びを生かしたプレゼン資料で発表を行う等、各教科と土佐山学の学習を横断的に進めていくようにしており、カリキュラム・マネジメントを効果的に機能させている。

具体的な取組

1 卵かけご飯にかけるオリジナルのタレづくり（令和3年度5年生）

土佐山にある地元特産品の販売所「BAL土佐山」では、土佐ジローの卵を使った卵かけご飯が人気である。この自慢のメニューをさらにおいしくするために、5年生が卵かけご飯にかけるタレの開発に挑戦！

専門学校の先生監修のもと、土佐山の特産品を使ったタレをいくつか考案し、実際に試食していただいて、一番人気を決定。今後、そのタレを販売してもらえるよう、地域の企業に交渉する計画をしている。



2 ゆず祭りの開催（平成30年度9年生）

土佐山地域の特産品であるゆずをアピールするため、地域に向けて、ゆず祭りの開催を提案。祭りの企画や運営はもちろん、ゆずを使った食品開発をしたり、企業からの支援をいただくために、いくつかの企業に出向き、祭りの企画に関するプレゼンを行い、支援を受けることができた。さらに、高知県知事や高知市長に、直接交渉・依頼し、当日の出席について約束をもらうことができた。平成30年度に、高知市中心市街地にある「ひろめ市場」で開催し、大盛況であった。ゆず祭りは令和3年度で4回目を迎える。



3 土佐山ツアー（令和元年度9年生）

土佐山地域への交流人口を増やすため、地域内を巡る観光ツアーを企画・立案し、実際に旅行会社に商品として一般の方へ販売してもらった。ゆずの収穫体験から地域の食材を利用した昼食や買い物など、土佐山学を学んできた9年生だからこそ土佐山色満載のツアーが完成！当日は、23名のお客さんに土佐山をたっぷり味わっていただき、最後は涙涙のツアーになった。令和3年度は、外国人を対象にしたツアーを開催し、英語を使っての地域の案内や日本文化の説明などを行った。



これまでの成果と課題、今後の取組

本校は平成27年に開校し、令和3年度で7年目を迎える。開校前は57名であった児童生徒数は、小規模特認校制度を利用して入学してくる児童生徒が年々増加し、令和3年度は143名になった。開校当時は2・3年生と5・6年生が複式学級だったが、現在では1年生しか区域外からの入学募集をしておらず、応募多数のため、毎年抽選が行われている。地域の方々からは、「子どもたちの人数が増えたことで元気がもらえる。私らあももっと頑張らにゃあ」という気持ちになるという声を聞く。

本校への入学希望の理由は、土佐山学と英語教育を挙げる家庭が多い。土佐山学は、単なるふるさと学習ではなく、地域を教材に学習するなかで、将来のキャリア形成に生かせる資質・能力を身に付けることを目標とし、特にコミュニケーション能力の育成を行う。そのため、本校では、英語教育においても実践的な場面で使える英語力を身に付けること（英語検定2級合格）が最終ゴールとなっており、毎年合格者が出ている。

祭りやツアーの企画以外にも、地域のCM動画を作ったり、「かなば」（かんなくず）のコサージュで土佐山の木を世界へ発信しようしたり、模擬株式会社を作って地域限定の商品を開発するなど、子どもたちの挑戦はすべて本物への挑戦である。そして、子どもたちが8・9年生になる頃には、誰もが日本語でも英語でも土佐山のことを熱く語れるようになる。地域を広くPRし続けることにより、地域の活性化にもつながっていると思われる。今後は、地域が子どもたちのアイデアを地域のイベントとして継続できるよう、学校としてどのように関わっていけるかを考えていかなければならない。